

「セーラが町にやってきた」・・・プレジデント社、著者清野由美

とっても、面白い本でした！ 中小企業の経営に役に立つ実話です。
北信濃の小布施の造り酒屋を、あっという間に、元気なアメリカ娘が、イノベーションしてしまった物語です。何もつてもなく たった一人で、台風のようにみんなを巻き込み、変えていったんです。
日経ウーマン・オブ・ザ・イヤー2002年大賞の受賞。
それまでの活躍のドラマとは？

今回はその主人公「セーラ」の座右の銘のメッセージです。

「DON'T QUIT」

「投げたら、ダメ」

ものごとは、いつだって、そう うまくはいかない。
とぼとぼ歩く道が、この先もずっと上り坂に見えたり
手もとに資金はなく、借金だけがかさ高かったり
笑いたいののに、ため息しかでてこなかったり
苦勞があなたを少し落ち込ませる。
そんな時、休みが要るなら休みなさい、でも途中で投げたら、ダメ。

だいたい人生はあっちにいったり こっちにいったり ねじくればかり。
でもだからこそ、失敗と見えたことが成功にくると転じたり
終わりまで粘り続けた人が、勝ったりする。
ものごとが進む速度が遅くても、途中であきらめないこと。
あきらめなければ、もう一押しで、思いを遂げられるかも知れない。

成功と失敗は表裏一体。
行き先をはばむ雲の中に、銀の輝きはひそむ。
けれど、人は、それがいかに近くにあるかわからない。
ものすごく遠くに見える輝きでも、もしかしたらすぐ近くにあるかもしれない。
だから、打たれ、へこまされている時ほど、闘い続けるべき。
ものごとが最悪に見える時こそ、絶対、途中で投げてはいけない。

<コメント>

皆さんにも「是非とも、読んで欲しい！」本です。
カルロス・ゴーンなどの経営書よりも、中小企業にとっては経営のヒントになります。
古い価値観は、自分ではわからない！
日本人よりもアメリカ娘の方が、日本人が大切にしなければならないものを知っている！
セーラは、「社員としては、下の下だが、経営者としては最高なんでしょうね」
経営にとって、一番重要なのは、MBAの理屈ではなく、「勇気」なんですね！
こんなところにヒントがあつたんだなと感じた一日でした。(^^) /